

本平 タウン情報

12/4

(火曜日)

配達 4.5日

(週3回/火・木・土発行)

飲んでよいか
酔ってよいか



神戸大研究室

伝統的採草地の調査結果発表

在来植物の多様性高い

木曾町開田高原の伝統的草地の植生などを調べてきた神戸大大学院生物多様性研究室は、11月26日に県などが同町の県木曾合同庁舎で開いた草地保全研究会で、草刈りと火入れの隔年管理の伝統的採草地で在来植物の多様性が高いとの調査結果を発表した。研究内容は8日、県環境保全研究所が開く公開セミナーでも一部が紹介される。

(田澤佳子)

開田の草地

減っている。こうした研究成果を里山再生の取り組みにとつなげるかが課題となる。

神戸大の永田優子さん(26)は、伝統的採草

研究会では信大も研究発表。地権者や保全活動家、木曾町など、今後の研究と保全の進め方について意見交換した。信州の里山は草原環境が特徴だが、かつて県内の13%を占めた草地が現在のは1%に



1973年9月の開田高原末川の里山。全山が草地で、帯状に草刈り跡が見られる(澤頭修自さん提供)



今年11月の末川の里山。樹木は今より広がったようだ。見晴らしがよく里に獣も出なかった」と地権者

地での調査結果について、「一年おきに火入れと採草を繰り返す伝統的な管理では、高すぎず、低すぎない草丈が保たれる。中間的な草丈によってさまざまな花が咲くことのできる多様な植生になる」とした。5-10月の調査で最も多くの花が咲くことが出来る草丈は85センチだった。

信大山岳科学総合研究所の江田慧子特別研究員(27)は、希少種のチョウ、オオルリシジミの保全と野焼きとの関係を発表した。江田さんは、チョウの絵本の出版など、里山の自然環境の豊かさのPRで地域活性化を語る話をしている。「研究結果を地域に返すところまでが私の研究」と話す。

意見交換会では、伝統的草地の保全に関して、木曾馬と結び付けて「希少な在来種の花々が咲く風景は観光資源などの意見が出た。実際に管理する地権者は「草刈りで自給的な農業をする人はもう少ない。希少種の昆虫の捕獲目的のマニアにも困っている」と直面する問題を話した。

神戸大の研究は今後も続く。「地域の環境は地域の人のもの。自分たちは開田について何も知らない。研究結果を伝え、開田の人と

話をしたい」と作ってきた里山の草地 活者と共に研究を進めたいという。同研究室。人の生活が、だからこそ、地域の生

8日セミナーも

木曾町県木曾合同庁舎で

県環境保全研究所が8日午後1-4時、木曾合同庁舎で開くセミナーは「すこいぞ 木曾の大自然」をめぐるのちと多様性がテーマ。木曾町環境協議会共催。パネル展示、講演後の意見交換会などもある。参加無料。

講演は次の通り(敬称略)。
▽木曾地域の地形と地質の多様性(富樫均)▽世界からみた木曾の魅力(永井信二)▽木曾の河川と魚たち(北野聡)▽木曾の草原利用の歴史と保全須賀丈▽木曾地域のニホンシカ被害対策(岸元良輔)
同研究所 ☎026・239・1031



「希望」をテーマにデザインしたイルミネーション

のビレッジ安曇野「安曇野の里わさび田広場」で、集まった人のカウントダウンで点灯した。来年1月31日まで。
「明るく日本に」という願いを込め、「希望」がテーマ。2分の広場には、高さ10メートルのメインツリー、ペットボトルのプレゼントボックスなど、15万球が輝く夢の世界をつくり出している。
実行委や地元の小中学生、市社会福祉協議会の施設利用者ら、延べ100人ほどが、11月3日から土日を利用